



■授業の目的

4年生の「教育実習」に臨むにあたって、これまでに学んできた教職に関する科目の学習成果をもとに、教育実習生としてふさわしい心構えや知識、指導力の基礎を身につけることを目的とする。

※「教育実習」をおこなうには、この科目の3年次履修・修得が必須である。

■授業の到達目標

教師への情熱や教育の使命感などの基本姿勢、学習指導・生徒指導の基礎的知識・技能、さらには実践的指導力の基礎を発揮して、各学校で教育実習生として円滑に実習ができることを到達目標とする。

■授業計画

- 1 教育実習事前指導の意義
教育実習の意義・目標を充分理解し、実習生としての心構えを理解する。
- 2 教員に求められる資質
最近の教育改革の議論や教育委員会が打ち出す教員像などをもとに、教員に求められる資質を実習生として理解する。
- 3 学校教育と法規
学校教育制度の概要を把握したうえで、さまざまな教育活動の根拠となる教育関連の主な法規の趣旨・内容を理解する。
- 4 学校教育と指導体制
各学校の教育目標、指導の重点・方針、それを実現するための教育課程と指導組織の関連を考察する。
- 5 教員の服務
地方公務員法、教育公務員特例法などをもとに、教員に求められる服務規律を理解する。
- 6 教職経験者からの講話
教職経験者を講師に招き、学校現場で教壇に立つ身として求められる教師観・指導観や教育実習中の留意点などについて理解する。
- 7 教育実習の実際①
教育実習にあたっての準備、実習初日の動き、接遇態度、授業見学などの実際の実習活動を具体的に理解する。
- 8 教育実習の実際②
担当教科の授業以外の、学級（ホームルーム）活動、清掃指導、学校行事・部活動の指導の実際を具体的に理解する。
- 9 教育実習の実際③
学習指導案作成の留意点、板書の仕方、発問・質問の機能と実際、評価の方法など、現場での実習活動に即して理解する。
- 10 模擬授業の演習①
学習指導案をもとに模擬授業を実践し、相互の講評を通じて、生徒の学習意欲を喚起するための工夫をどのように図ればよいかを考察する。
- 11 模擬授業の演習②
学習指導案をもとに模擬授業を実践し、相互の講評を通じて、多様な発問をどのように構成すればよいかを考察する。
- 12 模擬授業の演習③
学習指導案をもとに模擬授業を実践し、相互の講評を通じて、資料の選定・提示の仕方や読み取らせ方をどのように工夫すればよいかを考察する。
- 13 模擬授業の演習④
学習指導案をもとに模擬授業を実践し、相互の講評を通じて、学習効果を高める板書の仕方をどのように実現すればよいかを考察する。
- 14 模擬授業の演習⑤
学習指導案をもとに模擬授業を実践し、相互の講評を通じて、基礎的・基本的な知識・技能の習得と活用の両場面をどのように組み入れればよいかを考察する。
- 15 教育実習に向けて
学期試験及びフィードバックとしての解説を通じて、これまでの学修の到達度と課題を総括するとともに、『教育実習記録』の記入方法を確認する。

■授業の方法

事前指導では、教育を取り巻く最新状況、法規、指導体制、服務など教員として欠かせない基礎知識を講義と演習（ペアワーク・グループワーク）を通じて確かめるだけでなく、さらに実習中の動線の確認や、模擬授業など実践的演習を重点的にを行い、教育実習への取組意欲を高める。

事後指導では、教育実習の報告会（4年生後期）への参加と『教育実習記録』の提出を求める。

■予習・復習

予習ではテーマに関する情報収集を、復習では既習事項の要点を整理し、まとめる。受講学生に模擬授業の実践授業を求めるため、そのための学習指導案作成の予習や事後評価の復習も必要となる。

■成績評価の方法

学期試験の成績70%、模擬授業やグループワークなど授業中の取り組み状況30%の割合で総合的に評価する。なお、この科目は、教育実習と不可分であることから、教育実習を行うことが前提となる。

■教科書・参考書

教科書：中学校・高等学校の「学習指導要領」および「同解説」、授業中に配布するプリント

参考書：必須で使用する参考書はない。必要に応じて授業中に指示する。

■関連する科目

「教職論」「各教科教育法」「教職実践演習」などの修得が必要である。